

## 平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	日本の古都奈良が発信する「なら国際映画祭」にともなう国際観光・地域産業の活性化と人材育成		
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 なら国際映画祭実行委員会	(3) 対象地域	旧平城京区を中心とする奈良中心市街地
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	奈良県・奈良市

(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	(1)映画祭支援組織構築	
	実施主体	特定非営利活動法人 なら国際映画祭実行委員会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:①地域住民・国内外による映画祭支援体制の確立。②月次運営会議を実施。</li> <li>・実施期間:2008年9月～12月</li> <li>・実施場所:①奈良県内をはじめ、国内外 ②なら元気もんプロジェクト会議室、なら国際映画祭実行委員会事務局</li> <li>・取組の目的:①地域文化と経済密着型の映画祭を創設するため、地域住民や国内外の有識者及び企業や団体等に積極的に働きかけ、当該映画祭を支える映画祭支援組織を創設し、サポーター体制の確立を図る。②情報の共有を図り、連携した取り組みを展開するため月次運営会議を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:①映画祭への協力体制を確立した。②情報共有を図るため、月次運営会議を実施し、情報共有を図った。</li> <li>・実施期間:2008年9月～12月</li> <li>・実施場所:①奈良県内および関西・日本各地及びドバイ、韓国ほか②なら元気もんプロジェクト会議室、なら国際映画祭実行委員会事務局</li> <li>・取組の結果:①地域住民や企業等に対して当該映画祭に係る一定の理解が得られ、支援体制を構築することが出来、学生の映画祭への参加協力をカリキュラム化するなど、具体的な参画意義も示された。海外における映画関係の有識者とのネットワークを構築し、協力関係を得られた。②映画祭支援組織を構築し、月次運営会議を実施した(5回開催、今後2回開催予定)。</li> </ul>
<b>取組②</b>	(2)映画祭と地域文化資源に関する国内外への情報発信		
実施主体	特定非営利活動法人 なら国際映画祭実行委員会		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:①オフィシャルHPの作成。②シンポジウム3回開催(目標来場者数1,000人)。③奈良の伝統工芸品とのコラボレーションによるオフィシャルグッズの作成。④宿泊型公開講座の開催。⑤外国人ディレクター専任。</li> <li>・実施時期:2008年9月～2009年3月</li> <li>・実施場所:奈良市周辺地域</li> <li>・取組の目的:オフィシャルHP、シンポジウムで経済波及効果などの具体的な意義やメリット等の発信力を強化する。伝統産業の活性化と奈良のイメージ向上を図る。海外との窓口を広げ、連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:①映画祭のオフィシャルHPを開設(10月)。②10月に2回シンポジウムを開催(3月に第3回を開催予定)。③地元の伝統工芸関係者やクリエイターとともに奈良ざらし等を活用した商品を開発中。④海外有識者を招聘(3月予定)。⑤外国人ディレクターの選任不要。</li> <li>・実施時期:2008年9月～2009年3月</li> <li>・実施場所:シンポ:なら100年記念会館、奈良新公会堂、奈良県文化会館(予定)</li> <li>・取組の結果:HPで約2,000件ヒット(1月末現在)。支援会員の登録やオフィシャルグッズ販売も計画(2月10日)。シンポジウムでは、2回で700名の参加者があり、支援会員約200名を登録。伝統工芸のオフィシャルグッズ作成による地元との連携強化。3月に第3回シンポジウム(1300名規模)、宿泊型体験講座準備中。</li> </ul>	

取組③	(3)「なら国際映画祭」の意義に関する地域住民への周知													
実施主体	特定非営利活動法人 なら国際映画祭実行委員会													
実施内容、実施結果	<p>当初提案により予定していた計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:①プロモーションビデオ作成及び上映。②経済波及効果に関する情報収集とシミュレーション。</li> <li>・実施時期:2008年9月～2009年3月</li> <li>・実施場所:シンポジウム会場。HP上やTVCM放映。</li> <li>・取組の目的:プロモーションビデオにより、映画祭の意義や開催告知等を図る。シンポジウムでの上映や経済波及効果についてシミュレーションにより啓蒙を行うことで映画祭支援組織や地域住民等へ周知し、映画祭開催の意義を広める。</li> </ul>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容:①PVを作成し、シンポジウムにて上映(3月にも上映予定)。②集客目標数や経済波及効果等を具体的に示したシミュレーションを作成。</li> <li>・実施時期:2008年9月～2009年3月</li> <li>・実施場所:①シンポジウム会場 ②当該映画祭PRの機会全般</li> <li>・取組の結果:シンポジウム上映により映画祭開催の意義が周知できた。HPやTVCMなどでも展開予定。シミュレーションの結果を基に、地域住民や企業等に説明を行い、経済効果等の具体的なイメージが湧きやすく、理解の促進に繋がった。</li> </ul>												
(7)実施体制	<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人なら国際映画祭実行委員会(主担当:取組①②③) 内外支援組織の会員募集と組織化、各種媒体による情報発信の統括。</li> <li>・NPO法人なら元気もんプロジェクト推進会議(担当:取組①②)・奈良県立大学(担当:取組②)HPの情報更新、なら元気もんプロジェクトにおける活動内容と随時連携。宿泊型公開講座(モニターツアー)の企画・準備。外国人ディレクターの専任。</li> <li>・奈良県立大学(担当:取組③) 映画祭波及効果に関する情報収集。経済波及効果のシミュレーションの作成。</li> </ul>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組①実行委員会となら元気もんプロジェクトの連携により支援組織が形成され、会員募集(約300名)に効果があり、今後さらに拡充した連携強化を図る。</li> <li>・取組②実行委員会と奈良女子大の協力。映画祭や地域文化情報発信が可能となった。また、奈良県立大学の協力により「奈良学舎」やまど講座実行委員会と連携し宿泊型公開講座を実施予定。</li> <li>・取組③奈良県立大との連携により経済波及効果のシミュレーションを構築でき、各地からの理解や協力関係を構築した。実行委員会、なら元気もんプロジェクトや奈良県立大等との協力によりPV上映機会の増加など発信力の強化を語る。</li> </ul>												
(8)取組により得られた成果	<p>○成果1→「なら国際映画祭」の実現に向けた地域内外の支援ネットワークの構築</p> <table border="1" data-bbox="271 831 1980 1098"> <tr> <td data-bbox="271 831 875 863">H19</td> <td data-bbox="882 831 1980 863">H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 863 875 927">地域住民を軸にした支援組織が形成困難。地域外との連携も弱い。</td> <td data-bbox="882 863 1980 927">映画祭支援会員の募集・組織化→目標人数500人(うち奈良在住300人) 国内外の協賛企業の募集→目標社数30社(うち県内企業10社)協賛金額4000万円。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="271 927 1980 959">H20(実際に得られた成果)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="271 959 1980 1098">地域住民を中心に、現在までに約300名の参加希望者を獲得。海外有識者8名からの協力を獲得し、約20名の国内有識者からの応援メッセージを得た。企業・団体106社。政府機関3機関。教育機関73大学。ATR国際電気通信基礎技術研究所、NiCT独立行政法人情報通信研究機構など奈良市内のメディア・コミュニケーションを専門とする研究機関として地域内外支援組織を確立した。</td> </tr> </table> <p>○成果2→「なら国際映画祭」意義と地域文化資源に関する地域住民および国内外への情報発信</p> <table border="1" data-bbox="271 1150 1980 1246"> <tr> <td data-bbox="271 1150 875 1182">H19</td> <td data-bbox="882 1150 1980 1182">H20(当初予定していた目標)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 1182 875 1246">映画祭の体系的な情報発信は無し 映画祭の意義と地域経済・文化の活性化意識無し</td> <td data-bbox="882 1182 1980 1246">HPの開設・運営。シンポジウムの開催(3回1,000人)伝統産業グッズ作成。宿泊型公開講座(1回40名)。外国人ディレクターの専任。プロモーションビデオ作成。シミュレーションの実施。</td> </tr> </table>		H19	H20(当初予定していた目標)	地域住民を軸にした支援組織が形成困難。地域外との連携も弱い。	映画祭支援会員の募集・組織化→目標人数500人(うち奈良在住300人) 国内外の協賛企業の募集→目標社数30社(うち県内企業10社)協賛金額4000万円。	H20(実際に得られた成果)		地域住民を中心に、現在までに約300名の参加希望者を獲得。海外有識者8名からの協力を獲得し、約20名の国内有識者からの応援メッセージを得た。企業・団体106社。政府機関3機関。教育機関73大学。ATR国際電気通信基礎技術研究所、NiCT独立行政法人情報通信研究機構など奈良市内のメディア・コミュニケーションを専門とする研究機関として地域内外支援組織を確立した。		H19	H20(当初予定していた目標)	映画祭の体系的な情報発信は無し 映画祭の意義と地域経済・文化の活性化意識無し	HPの開設・運営。シンポジウムの開催(3回1,000人)伝統産業グッズ作成。宿泊型公開講座(1回40名)。外国人ディレクターの専任。プロモーションビデオ作成。シミュレーションの実施。
H19	H20(当初予定していた目標)													
地域住民を軸にした支援組織が形成困難。地域外との連携も弱い。	映画祭支援会員の募集・組織化→目標人数500人(うち奈良在住300人) 国内外の協賛企業の募集→目標社数30社(うち県内企業10社)協賛金額4000万円。													
H20(実際に得られた成果)														
地域住民を中心に、現在までに約300名の参加希望者を獲得。海外有識者8名からの協力を獲得し、約20名の国内有識者からの応援メッセージを得た。企業・団体106社。政府機関3機関。教育機関73大学。ATR国際電気通信基礎技術研究所、NiCT独立行政法人情報通信研究機構など奈良市内のメディア・コミュニケーションを専門とする研究機関として地域内外支援組織を確立した。														
H19	H20(当初予定していた目標)													
映画祭の体系的な情報発信は無し 映画祭の意義と地域経済・文化の活性化意識無し	HPの開設・運営。シンポジウムの開催(3回1,000人)伝統産業グッズ作成。宿泊型公開講座(1回40名)。外国人ディレクターの専任。プロモーションビデオ作成。シミュレーションの実施。													

	<p>H20(実際に得られた成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィシャルHPにて情報発信。より幅広く奈良の地域文化資源の情報発信の為HPをリニューアル予定(2月)。</li> <li>・シンポジウムを開催し、地域文化資源に詳しい著名人を迎え地域への波及効果を周知することができた。</li> <li>・伝統工芸とのコラボによりオフィシャルグッズを開発、地域で協働できた。</li> <li>・宿泊型公開講座により、海外有識者向けに国際映画祭と奈良の文化資源に関する普及活動を行う予定(3月)。</li> <li>・映画祭実施による地域経済への波及効果を示すシミュレーションを作成し、映画祭の意義と経済波及効果の説明を行うことにより、地域住民や企業等への参画や協力を呼びかけ、映画祭支援組織の強化へ繋げることができた。</li> </ul>	
(9) 今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画祭支援組織の目標人数において、目標の500名には届かず300名、企業協賛も資金的な協賛は達成出来なかった。その為、次年度では映画祭支援組織の会員募集について、メディアを通じた全国的な広域募集を展開する予定。さらにHP上でも登録を可能にする。</li> <li>・オフィシャルグッズの作成に遅れが出たが、3月の第3回シンポジウムでの販売に向けて開発中。次年度は戦略的にそれらを‘売る’ことを目指し、シンポジウムやイベント会場等にてアンテナショップを設置するとともに、オフィシャルウェブ上でも紹介及び販売を検討する。</li> <li>・映画祭の経済効果に係るシミュレーションを用いた説明を行い、一定の理解と効果が有った。次年度はそれら経済波及効果を実現化していく為に、より本番の映画祭に近い形でシンポジウム/イベントを年6回開催予定。</li> </ul>	
(10) 平成21年度以降の活動の見込み	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「なら国際映画祭」の実現に向けた地域内外の支援ネットワークの強化(H21~22年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画祭支援組織の会員増加。20年度500人+21年度300人</li> <li>・企業/団体による協賛の拡張 20年度30社+21年度15社</li> <li>* 協賛金額 ¥60,000,000</li> </ul> </li> <li>2. 国内外への情報発信に伴い、「奈良」とその地域産業のブランド力を強化(H21~22年度3月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアパートナー選定、国内・国際的なメディアキャンペーン開催</li> <li>・映画祭イベントの開催</li> </ul> </li> <li>3. 映画祭の内容構築(H21~22年度3月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の選定、映画募集、実際のプログラムの準備</li> <li>・海外VIP(ハリウッド、カンヌ、国連関連ect.)との国際ネットワーク構築</li> </ul> </li> <li>4. 第1回「なら国際映画祭」に向けた最終準備、開催、及び活動報告と再計画。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実現に向けた最終的な準備と作品の選定・プログラミング</li> <li>・開催機関中イベントを昼夜行い経済波及効果を促す。</li> <li>・参画された団体からの報告を受け次年度の再計画</li> </ul> </li> </ol>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「なら国際映画祭」の実現に向けた地域内外の支援ネットワークの強化(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体:なら国際映画祭実行委員会</li> <li>・全国的なメディアを通じ広域な会員募集活動を行い奈良ブランドと支援組織の強化、両方を行う。</li> <li>・協賛企業・団体から映画祭本番により近い実践的な形で参画を図る。経済波及効果のシミュレーションをより実践的な形で実施する。</li> <li>・21年度までに協賛企業・団体数を90、金額目標5000万円に変更し、地道な協力依頼を重ねて理解を得る。</li> <li>・海外における有識者とのネットワークにより普及活動と各地域の作品選定を行う。</li> <li>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1000万円)]</li> </ul> </li> <li>2. 国内外への情報発信に伴い、「奈良」とその地域産業のブランド力を強化(平成21年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体:なら国際映画祭実行委員会</li> <li>・HPにおける動画での地域文化資源に関する情報発信を行い、広域な広報を構築する。</li> <li>・HPやイベントで伝統産業を活用したグッズを販売することにより、地域ブランドを発信する。</li> <li>・Artists in Residency プログラムを実施し、国内・海外からのクリエイターが奈良にて作品を作る場を提供し、奈良を外へ向かって紹介する。</li> <li>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1000万円)]</li> </ul> </li> <li>3. 映画祭の内容構築(H21年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体:なら国際映画祭実行委員会</li> <li>・イベントで最終的な会場選定を実践して決定する。経済波及効果を含む成果と課題を明確にし、協賛企業・団体とより詳細なシミュレーションを作成し、映画祭の実践的準備を行う。</li> <li>・実際のプログラム作成のため、世界各地の映画選定作業を行い、上映等実証を行う。</li> <li>・ウェブ関連のプロダクトチームを編成して情報発信の強化を行う。地元TVにてCM放映することにより、映画祭や地域文化資源の広域的な広報活動を強化する。</li> <li>[活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額2500万円)]</li> </ul> </li> <li>4. 第1回「なら国際映画祭」に向けた最終準備、開催、及び活動報告と再計画。H22年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体:なら国際映画祭実行委員会</li> <li>[活用を希望する制度:無し。支援組織、間企業・団体、地方行政からのサポートによる運営を目指す]</li> </ul> </li> </ol>

◆主な実施取組の内容◆

取組①: 支援組織構築

実施主体: NPO法人なら国際映画祭実行委員会

●支援組織を強化するべく地元企業や学校法人・団体参画のもと、2度のイベントを08年10月に開催。

09年3月7日に第3回目の大規模(集客目標1,300名)を開催予定。

10月4日共同開催の地元出店者(会場外) 地元ボランティア・会員参加者。



●ドバイ、韓国などで開催された映画祭・組織の調査を敢行。世界各地から集う映画界の有識者に奈良を周知させネットワークを強化。



【支援会員】  
 現在、参加申し込み者: 約300名  
 \* 内、奈良県民200名以上。  
 【協賛見込み団体】  
 現在、約20団体。  
 \* 内、奈良県における団体が、16団体。

南ア映画関係者との映画祭への参加協力を獲得。(ドバイ映画祭にて)  
 \* 3月奈良を訪問イベント参加予定。(他7海外映画有識者も参加予定)

取組②: 映画祭と地域文化に関する情報発信

●オフィシャルウェブサイト [www.nara-iff.jp](http://www.nara-iff.jp)  
 2月10日リニューアル開設: 奈良文化の発信



●広報ツール作成



Tシャツとポスター



エコバッグ

●シンポジウムの実施 (約700名 来場)



10.4 イベント来場者



10.24 イベント来場者

取組③: 映画祭の意義に関する地域住民への周知。

●プロモーションビデオの制作と上映。



10.4 イベントを皮切りに上映。



10.4 イベントでの上映風景

シミュレーションを作成・映画祭から見込まれる波及効果を具体化。

- オフィシャルHPにてPVを配信するために現在制作中
- オフィシャルHPにてシミュレーションを公開する。
- 地元TVを利用して、映画祭の地元への波及効果を明示するCMを作成し上映する。そのために現在CM作成途中。

◆取組実施による成果・今後の展開◆

- 取組①の成果: 周辺地域における企業・団体・研究機関との協力関係を構築。国内・外の映画界の有識者との関係を築き、映画祭への協力を呼びかけた。
- 取組②の成果: 映画祭を切り口にHP、シンポジウム、グッズを通して奈良に関する情報を広域に発信。
- 取組③の成果: 映画祭の目的・意義、そして経済波及効果をより明確にすることにより参画団体とともに映画祭の内容と期待する波及効果をより具体的に示す。

- 課題1: 取組①の成果1を受け、今後、経済活性化を実現するにあたり、周辺地域以外の団体へ奈良を紹介・売り込む活動を積極的に行う必要がある。すなわち内と外の関係づくりを行う。
- 課題2: 取組②の成果を受け、今後、特に伝統産業を重視したプランニングが必要。地元クリエイターを用いて販促物を制作したが、伝統工芸とのコラボレーションを行い、それらをメディア広報することで広域に産業を売り込む。
- 課題3: 取組③の成果を受け、今後は、シミュレーションとしての机上の段階から脱し、経済波及効果の実践を6回のイベントを通して行う。そして、第1回映画祭の実践練習とする。